

会報誌250号の発行、おめでとうございます！
今後も300号、350号と続くことを期待します☆彡

アイソン彗星も盛り上がって来ましたね～♪
今朝は無理でしたが12月は是非行きたいです！！
磯部さん、車乗せてくださいっ<(_ _)>

というわけで、私はアイソン彗星ネタがないので、今年の1月にテレビ「旅のチカラ、極夜を彩る星への願い、篠原ともえ フィンランド」で観て絶対に冬の会報で書こう！
と思っていた星座があります。

トナカイ座

★フィンランドに住むサーミ族ではトナカイの星座がありカシオペアがトナカイの角で双子座がトナカイのお尻オリオン座がトナカイの爪にあたります。日本で見れる3つの星座が繋がってトナカイになっています。トナカイの鼻の部分が牡牛座のアルデバランで真っ赤なお鼻のトナカイさんの歌のようになっています。

サーミ族の神話でアルクツールスの場所がフィルナと呼ばれシリウスの場所がカッラと呼ばれています。二人は同じトナカイを狙い弓を引きましたが北極星に矢が当たり跳ね返った矢で二人の息子と娘がイナリ湖に落ちてしまい最初のサーミ族が生まれたという神話があるそうです。

★そして、これとは別に88星座にない「トナカイ座」というのもあるそうです。
となかい座（となかいざ、馴鹿座、Tarandus, Rangifer または Reene）は、[ピエール・シャルル・ルモニエ](#)が18世紀に作った[星座](#)の1つ。

ルモニエが1736年に[モーペルテュイ](#)らの[ラップランド](#)への[子午線弧長](#)の[測量](#)遠征に参加したのを記念して、現地で見つめたトナカイを元に作った小さな星座で、今でいう[きりん座](#)と[カシオペア座](#)の間にあったが、ほとんど使われなかった。

★フランスの天文学者ピエール・シャルル・ルモニエ（1715～1799）が設定した星座「トナカイ座」です。

12月といえばクリスマス、今月はサンタクロースを乗せてやってくるトナカイの星座です。ただ、この星座の製作者のルモニエはサンタクロースにちなんだ星座を作ろうとしたわけではなく、彼が参加したスカンジナビアへの観測遠征を記念してこの星座を作ったとされています。

このスカンジナビアへの観測遠征はフランス人のモーペルテュイを隊長とする地球の正確な形を実測するためのもので、ルモニエは隊員の1人でした。この極北の地への遠征はルモニエにと

このことだけを見るとルモニエは、自分の思い出を星座にしてしまえる、いかにもあつかましい人物のように思えますが、実際にはその反対で誠実でゆかしい人柄であったといわれています。彼の人柄はフラムスティード星図の中で従来の星座と区別できるように自分が書き入れた星座を遠慮がちに点線で書いたり、この星座を取り入れたことの理由として、自分ではなく、隊長のモーベルテュイや同僚の隊員であった数学者クレローの功績を称えたりしているところからも伺えます。

ただこうした控えめな姿勢が災いしたためか、後の時代でこの星座は一般的なものとはならなかったために現行の88星座の中に含まれることはありませんでした。

【ウィキペディア、他インターネットサイトより】

トナカイ座といっても、クリスマスとは関係ないんですね。
関係があったらちょっとロマンチックだったのに～と思います。

